

2025 年 9 月 2 日

各 位

株式会社八木熊

**建設現場から排出された廃プラスチック段ボールを工事用フェンスに再生利用
～建設廃材の水平リサイクルフロー構築により廃棄物抑制と CO2 削減効果に寄与～**

株式会社八木熊は（社長：八木信二郎）は株式会社大林組、株式会社日成ストマック・トーキョー、日本セイフティー株式会社の 3 社と連携し、株式会社大林組の建設現場から搬出されたプラスチック段ボール（以下、プラダン）を工事用フェンスとして再生し、大林組技術研究所（東京都清瀬市）の実験棟「オープンラボ 3」の新築工事現場の仮囲いとして試行導入及び実証実験を開始致しました。

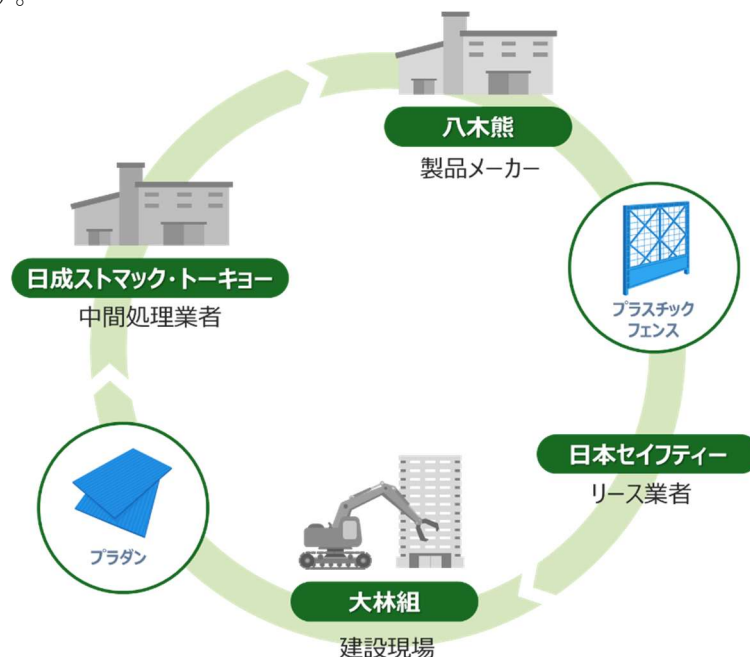
1. 背景

建設現場から排出されるプラスチック廃材の多くは、マテリアルリサイクルが進んでいません。そこで今回、建設現場から出たプラスチック廃材を再び現場で利用する建設資材に再生するために、プラスチック廃材の水平リサイクルフローを構築することとしました。

2. プラスチック廃材水平リサイクルフロー構築の取り組み

大林組の建設現場から出た廃棄物を日成ストマック・トーキョーにて収集し、プラダンを選別・圧縮して八木熊に納品します。八木熊で、プラダン由来の原材料を約 30% 混合してプラスチックフェンス（1000mm×1000mm）を製作し、日本セイフティーが大林組の建設現場にリースします。これにより建設現場から排出するプラスチック廃材を減らし、現場からの資材を循環させる仕組みを実現します。

また、再生プラスチック使用比率をさらに高めた製品の現場導入に向けた実証実験も進めています。



プラスチック廃材水平リサイクルフロー（イメージ）

3. 取り組み効果

プラスチックフェンス製作時に使用するバージン材を従来に比べ約 30%削減することで、原材料製造時に排出される CO2 も 30%削減されます。今後水平リサイクルフローの運用を拡大していくことで、建設現場における、さらなる環境負荷軽減が期待できます。

また協力会社との連携により、排出されてから、再び建設現場に、再生品が納入されるまで追跡調査が可能となり、再生品の品質管理面以外でも原材料の環境配慮度や安全性等も可視化出来るようになります。

さらに、建設現場からリース業者に返却されるプラスチックフェンスは、回収・再利用され、劣化や破損があれば繰り返しフェンスに再生することも可能です。

4. 今後の展開

当社は今後もリサイクル技術を活かし、廃棄物を有価物として循環させる取組を推進してまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社八木熊 創夢部 0776-22-3300